

GRIPSのSDGsへの貢献

Knowledge and Research: GRIPS' contributions to the SDGs



GRIPSでは、政策の現場で直面するさまざまな問題を解決するための専門的な教育を提供し、SDGs達成に向けた活動の現場を支える人材育成に力を入れています。

GRIPS provides students with the specialized knowledge needed to successfully address real-world policy issues, and trains the active agents behind projects targeting the SDGs.

- 開発途上国から多くの学生を受け入れ、教育を実施
GRIPS educates large cohorts of students from developing countries.
- 学生はそれぞれの国と地域が抱える現実の課題の解決を志して来日し、専門的な知識を習得して帰国
GRIPS students come to Japan with a strong desire to solve the problems of their countries and regions. They gain the extensive specialized knowledge that they need in their work at home.
- 対処すべき課題は、貧困、子供、医療、教育、環境・資源、経済、安全保障など多岐にわたる
They have to tackle a wide range of problems related to issues including poverty, children, medical intervention, security, and the environment.
- 学生は修了後、各政府や関係機関で働く職員として
NGO、市民団体、大学・研究機関等と協力し、さまざまな課題解決に尽力
After graduation GRIPS, they will work hard within their home government agencies and collaborations with NGOs, citizens' groups, universities, and research centers to resolve a variety of issues.



政策研究大学院大学 特任教授 政策研究院参与

粗 信仁さん

北海道釧路市出身。北海道大学農学部林学科を卒業後、農林水産省に入省、後に外務省に移籍。経済協力局政策課長等、在シドニー日本国総領事、国際協力機構（JICA）理事、在スリランカ・モルディブ日本国特命全権大使などを歴任し、2015年から現職。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



森と緑とSDGs

皆さん、SDGs(持続的開発目標)という言葉やその口ゴを見かけることが多くなったのではないかでしょうか。今、地球上では温暖化によって大洪水や大規模な山火事などの極端な自然災害が増えています。そのため国際的に、我々の経済や社会を「持続的」に発展させていく必要があり、今までのやり方を変えていくべきだという考えが急速に広がっています。

これは、SDGsの前の国際目標だったMDGs(ミレニアム開発目標)が開発途上国だけの目標だったのに対して、SDGsが国連加盟国のすべての国が達成すべき目標となったこととも無縁ではありません。どこか遠い外国や開発途上国ではなく日本など先進国もそれぞれ目標に取り組み、成果を国連に報告することとなっています。もちろん先進国にとっても、自国内の収入の格差や男女の格差を減らし、再生可能エネルギーの導入や食品ロスを減らすことなど、持続的な社会を作るうえで重要な課題が多くあります。その上で、先進国や新興国には、より貧しい国の課題の解決へ技術や資金など支援の手を差し伸べる義務があります。

世界の人々の考え方も大きく変わっています。お金の貸し手である機関投資家は、ESG投資(環境・社会・企業統治投資)やグリーンボンドといった新しい付加価値がある投資を急速に増やしています。また、消費者の間でも持続的な生産という保証がない生産物を買わない、使わないという姿勢が強まっています。ちなみに、2020オリンピック会場の国立競技場で使われている47都道府県の木材はすべて国際的な持続的生産の認証を受けた木材です。

持続的開発というSDGsの目標を達成する上で、「森と緑」は多様で重要な役割を果たしています。第一に、温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収し固定できるのが「森と緑」です。その資源は、燃料として使えば再生可能エネルギーですし、木材などで利用することは吸収し

た二酸化炭素の貯蔵を意味します。

第二に、「森と緑」は、資源として林産業を支え雇用を生みます。また、豊かな水を生み、農業や漁業をはぐくむ環境を守ります。このように見ていくと、SDGsの17目標のほとんどすべてに「森と緑」が関係しています。例えば、17目標の一つにジェンダー(男女)平等の達成があり、一見「森と緑」とは縁遠いようですが、北海道内でも林産物の利用を工夫する中で女性の雇用機会が増えたという実例があります。

SDGsが生まれることとなった危機意識のもう一つには、地球全体の人口が依然増え続けていることがあります。2017年に76億人だった世界の人口は2050年には98億人に達し、さらに100億人を超えると予測されています。これを支える食糧・資源は確保できるのでしょうか。世界の農地・水資源には限りがあり、エネルギー資源にも限りがあります。

そのような視点で北海道の未来を考えると、なんと恵まれていることでしょう。世界では将来の食糧の確保をめぐり水の争奪戦が起きると予想されています。実際、日本もトウモロコシ、牛肉、大豆、小麦といった農産物の形で、換算すると日本国内のかんがい総給水量を上回る水を輸入し、この争奪戦に参加しています。一方、北海道では、面積で日本全体の22%を占める森林が豊かな水を生み、将来に向けての生産環境を守ってくれています。森林資源についても、世界の木材需要に対して資源の不足が指摘されています。現に2018年には、我が国が輸出した木材の額が41年ぶりに350億円を超え、北海道からの輸出額も着実に増えています。

そういった産業面に限らず、「森と緑」の価値は多様です。北海道で生まれ育った私にとって、北海道の森は格別に美しく感じられます。そのような多面的な価値を常日頃の活動で守り育んでいただいている皆様に改めて深い敬意と感謝の意を表します。